

産業発展論（川 端）演習

1 テーマ 世界と日本を動かす産業の構造とダイナミズムを分析する。産業発展論は、時間の経過に即した産業の変化を取り扱う科目です。

2 テキスト 未定。まず本を輪読しながら、産業分析の方法論を学びます。2014年度はクリステンセン&レイナー『イノベーションへの解』、末廣昭『アジア新興国経済論』を用いました。そして各自の業界分析に移ります。

3 趣 旨 (1) 企業・業界分析ができるようになるろう！ (2) プレゼンテーションとレポート作成ができるようになるろう！ (3) 自分のゼミ活動を形に残そう！ (4) 根拠のある自信をもって世界を語れるようになるろう！

4 募集人員 4月進級者、編入学者、10月進級者合計7名を目安とします。

5 参加条件

①無断欠席絶対不可。②ワード、エクセル、パワーポイント、インターネットメールを使います。③川端担当年度の「企業論」も受講してください。④当ゼミは経済学科のゼミですが、経営学と重複する部分も少なくありません。⑤経済数学は必要ありません。⑥よく読み、よく語ろうとする姿勢が必要です。

6 選考方法（4月進級予定者）

第1, 2次募集では、計7名まで無条件で受け入れます。7名を超えたときだけ選抜を行います。第3次募集は、2次募集までの参加決定者が4名以下の場合のみ行い、個別に面談して決定します。

7 運営方針

(1)ゼミ生が書いたレポートや演習論文を編集して形に残すことを重視します。(2)定性的分析、ケース・スタディが中心です。ひとつひとつの業界の出来事や企業の行動を理解し、その経済的・社会的意義を探る方法です。(3)近代経済学、マルクス経済学、経営学のいずれをベースにしても議論できます。(4)2月に打ち合わせを行います。(5)ゼミの中心的内容は、以下のとおりです。a)テキスト輪読。b)各自の業界研究。c)セミナーや見学旅行の企画や記録作成の会議。d)卒論の報告。(6)学生の研究計画を書籍購入等で支援します。(7)前任教授時代から40年以上続くOB・OG会があり、年に1回「現代産業研究会」を

行っています(自主ゼミの工業経済研究会と合同)。各界で活躍されている卒業生や研究者の講演を聞き、交流できます。(8)様々な企業を年1回以上見学します。

8 担当教員の主要な研究業績

「大連市におけるソフトウェア・情報サービス産業の形成」『アジア経営研究』第18号、2012年(張艶氏と共著)、『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年など。主に東アジアの産業について研究しており、日本、韓国、中国、タイ、ベトナムなどで実態調査を行っています。アジア経営学会、産業学会などに所属しています。

9 指導教員が薦める本 自分が面白いと思った本を読んでもください。

10 「ゼミ見学」の可否 歓迎。常時受け付けます。金曜日14時40分に第8演習室へ来てください。途中退室・入室可。

11 10月進級者に対する特記事項 なし。

12 その他

教員のウェブサイトを見て、自分の関心とゼミの内容を比較してみてください。メールによる問い合わせも受け付けます。kawabata@econ.tohoku.ac.jpです。

演習論文で研究したい業種・企業は自由に選べます。過去のテーマは、ウェブサイトの『研究調査シリーズ』紹介ページを見てください。

進路実績はメーカー(自動車、重機、鉄鋼、素材、医薬品、化学、エレクトロニクス)、銀行・証券、サービス(鉄道、不動産、テレビ局、コンサル、大学職員)、公務員、大学院進学など多岐にわたっています。

2014年度第2学期のゼミ参加者は16名。ゼミ生の懇親会も盛んですが、飲酒を強要することはありません。

学びたい人、書きたい人、語りあいたい人を待っています。